

MIYANO Kanako  
宮野 加奈子

弘前大学医学部医学科 5年



2023年11月にスペインのグラナダで開催された国際がん登録学会に参加しましたので、その様子をご報告させていただきます。今回の学会はヨーロッパがん登録学会（EACR）との合同開催で行われました。がん登録に携わっている世界中の方が集まり交流する場に参加できたことを光栄に思います。国も職業も経歴も異なる人が、がん登録という一つの共通点をもつことで盛んに議論をし、交流をする姿は非常に新鮮でした。COVID19ががん治療に与えた影響などの疫学研究や、がん登録に取り組み始めた国の発表を聞き、目の前の患者を救う臨床医とは違い、公衆衛生学や疫学はデータで客観的に医療を評価することで間接的に多くの患者を救うことが出来る魅力があると感じました。

私は弘前大学医学部附属病院における胃がんの標準治療の実施割合についての研究をポスター発表させていただきました。この研究は昨年に大学の授業プログラムの一環で研究室研修の際に行った研究です。研究についての質問は難しいものもありましたが、大学生のうちにこのような経験が出来たのは貴重なものとなりました。

私にとって初めての海外、初めての学会参加、初めてのロストバゲージの経験と初めてづくしの1週間となりました。青森県からグラナダまでは移動に約1日かかります。初めての海外旅行にしてはかなりの長旅で忘れることの出来ない思い出です。イスラム教とキリスト教の文化が融合したグラナダの町並みは日本では見る事の出来ない景色で非常に感動しました。また、予想していたパエリアなどのスペイン料理ではない食事も多く、美

味しいかどうかという感想を超えた初めての味わいで、世界の食文化は多様だと体感しました。

今回の学会参加は、世界の広さや疫学研究の魅力を実感する充実した時間でした。ありがとうございました。



TSUCHIYA Kanata  
土屋 奏太

弘前大学医学部医学科 5年



このたび、2023年11月に開催された国際がん登録学会（IACR）に参加させていただきました。同学会はスペインのグラナダにて11月13日から開催され、計3日間参加しました。初めての国際学会への参加であり、同分野の研究を行っている世界中の研究者が集結し、意見交換する場に参加させていただいたことは大変貴重な経験でした。学会においては、各国研究者の発表や疫学に関するセミナー等が行われました。各国からの研究発表では、保険制度やがん登録制度の多様性が示され、特に過剰診断に関する議論が活発に行われました。また、データリンケージや機械学習を用いた研究発表も多く、登録データの質の向上に向けた取り組みが示されました。

私たちは、弘前大学附属病院における大腸癌・胃癌患者の標準治療施行と住居および併存症との関係について研究し、ポスター発表を行いました。この研究は、患者の生活背景と地域による治療選択の関連性に光を当てるもので、多くの参加者から貴重なフィードバックをいただきました。

私個人としては、医療分野における機械学習・深層学習の応用事例を学ぶことができ、大変有意義でした。医学とコンピューターサイエンスの融合への道筋にはまだ多くの課題が存在しますが、これらを学習するための新たなモチベーションを得ることができました。学会後は、レセプションやディナーが催され、イスラム文化の影響を受けた料理や建築を体験することができ、大変貴重な経験となりました。

最後に、私にこのような格別の機会を与えてくださった全ての先生方に、心からの感謝を申し上げます。学部生として、この貴重な経験をさせていただいたことに深く感謝いたします。医療AI及び統計学、疫学分野での知見を深め、将来的には医師としてこれらの学びを社会に還元し、貢献できるよう努力を重ねてまいります。

## 国際がん登録学会参加報告